

# しべつ

# 議会だより

9月定例会

第156号

平成27年11月1日

行政報告…………… 2～3

町政のそこが聞きたい…… 4～7  
(一般質問)

委員会などの動向…………… 8～9



一筆、一筆色を重ねて作品ができ上がっていくのを  
楽しんでいます。

## フォーカートペインティング

代表 佐々木 澄  
会員数 6名  
月会費 3,000円  
設立 平成5年  
例会 第1・第3 月曜日  
午後1時～4時

発行／北海道標津町議会

編集／広報特別委員会

# 基幹産業の状況について

## 金澤瑛町長の行政報告

### 酪農業

今年は、大雪による雪解けの遅れの影響により、スラリー散布などの作業に入る時期が平年に比べ若干遅くなったが、その後の作業が順調に進み、1番草については、前半の適度な降水と好天により、また、後半は降水量不足となったものの、収穫量は平年値を上回り、栄養価についても平年並みとなった。

8月末から2番牧草の収穫作業が始まり、一部の農家では収穫作業を終えているが、少雨傾向による生育の遅れにより、現時点で収穫量は平年を下回っており、栄養価については低水分を心配している。

なお、今年4月から8月末までの5ヶ月間における生乳生産量は、

前年同期とほぼ変わらず、0.05%減の41,343トンとなっている。

### 漁業

今年も、9月1日から秋サケ定置網漁が解禁となった。本年は、河川への親魚の遡上を優先させる考えから、網入れの順番を従来と逆の沖側から入れる方法としたため、3日間の網入れ期間は水揚げをせず、9月4日からの水揚げとなったが、標準漁業協同組合における9月16日までの水揚げ量は、対前年同期比で約22%増の736トンとなっている。

近隣における15日までの漁模様については、対前年同期比で、野付が12%減の542トン、別海は10%減の237トン、羅臼は6%減の

850トンとなっており、管内全体では4%減の3,023トン、道内全体では9%増の17,789トンとなっている。

いずれにしても、本町の水揚げ量はかつての漁獲水準にはほど遠く（1/2程度）依然として厳しい漁業経営を強いられている。

秋サケの不漁は漁業生産者のみならず、地元水産加工業や運送業などの関連産業の経済活動にも大きな影響を与えるだけに、大きな懸念を抱いている。

なお、北海道立総合研究機構さけ・ます内水面水産試験場が発表した今年の来遊予想値では、標準海域を含む根室北部海区の来遊予想は前年対比で43%増となっていることから、今後の水揚げに大きな期待を寄せるものであ

る。

一方、ホタテ漁については、先月22日に夏の繰業を終えているが、漁獲量は昨年同期との対比では、約34%減の3,043トンとなっており、過去5年間の同期と比べ最も少ない数量に留まった。

水揚額については、主要生産地であるオホーツク海域での大しけによる資源減少や、中国をはじめとする東南アジアへの輸出が好調であることなどにより需要が増加しており、平均価格が前年対比で約59%増の336円/kg（これは平成3年以来、24年ぶりの300円台）と高騰していることから、10億2千3百万円となり、計画及び対前年同期を上回っている。

## 同意案件

### 教育委員会委員 井上 辰美

標津町字川北2336番地 1  
〈任期〉  
平成27.10.9～31.10.8

## 意見書

○林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書

提出者

**大垣 勇** 議員

○地方財政の充実・強化を求める意見書

提出者

**大垣 勇** 議員

## 一般会計の補正予算

### 主なもの

(単位:千円)

項目	金額	内容
マイナンバー利用環境設備構築事業	11,018	社会保障・税番号制度の対応として来年1月からの制度開始に合わせた関連機器の設置、セキュリティの向上のための整備費
標津町PR促進事業	2,511	人口減少対策として町の施策や魅力等を町内外にPRし、移住定住、交流人口等の促進を図ることを目的とする。
乳幼児紙おむつ購入費助成事業	1,590	出生数が例年より大幅に上回ったことによる増額
各種予防接種事業	759	インフルエンザワクチンの製造株が、3種類から4種類に変更になったことによるワクチン単価の増額(高齢者分、1人当り1,000円増)
インフルエンザ予防接種助成事業	671	同上(未就学児、小中学生分、1人当り1,000円増)
病院会計繰出金	5,000	久留米大学への研究研修費増額に伴う繰出金調整
海岸漂着物地域対策推進事業	4,978	平成27年度内の集中豪雨等による海岸漂着流木の回収、運搬処理費
学校給食センター食器消毒保管庫更新事業	4,104	食器消毒保管庫は20年以上経過し、更新時期を迎えているため

## 平成26年度の 決算特別委員会 に付託

町長から報告のあった一般会計、特別会計(『平成26年度標津町国民健康保険特別会計

## 道の駅設置に関する 特別調査検討 委員会 を設置

道の駅設置に関する調査検討を行うための特別委員会が設置され、委員の選任がされた。

委員長 **高橋 幹雄**  
副委員長 **南 憲治**

期限平成28年9月30日

(事業勘定)『など』9件について、議長と議会選出監査委員を除く8名による決算審査特別委員会を設置し付託した。

委員長 **大垣 勇**  
副委員長 **南 憲治**

## 一般質問

# 町政のそこが聞きたい

平成27年第3回定例会(9月16日)で3議員が一般質問をしました。  
各議員の質問項目とその内容を要約して掲載します。

## 小川 悠治 議員

5ページ

- 豪雪被害、緊急対策を…  
世界的遺産「伊茶仁カリカリウス遺跡」
- 道博物館の「夷酋列像特別展」  
～その舞台は標津～



■ポー川史跡自然公園(ビジターセンター内)  
夷酋12列像



■ポー川史跡自然公園(倒壊した竪穴式住居)  
■北海道博物館開館記念特別展  
夷酋列像 蝦夷地イメージをめぐる  
人・物・世界

## 金田 照男 議員

6ページ

- 町民の意見を町づくりに  
反映させる取組の強化を！  
～公共施設などへの「ご意見箱」設置や役場内での要望  
窓口開設や案内の充実について～



■目安箱



■役場庁舎内(案内図近辺)

## 吉田 智 議員

7ページ

- ～酪農を「楽農」にする為に～

※ 国営環境保全型



かんがい(灌漑)排水事業の  
導入を…



■(合同会社)グラスONE TMRセンター

※ 国営環境保全型かんがい排水事業

- 国土交通省(北海道開発局)が推進する国営事業「農業生産基盤保全管理整備事業」の一事業であり、受益面積1,000ha以上の畑作酪農地域において環境保全に資する各種事業等の連携の下に、水質浄化機能等多面的な機能を有する農業用排水施設の整備を末端5haまで、一体的に実施する事業
- 補助率95%(国80%道15%)

## 豪雪被害、緊急対策を…世界的遺産「伊茶仁カリカリウス遺跡」

### 白樺材料入手不能、茅葺住居は職員で再復元

**問** 世界的文化遺産である伊茶仁カリカリウスは昭和58年国の遺跡に、湿原は天然記念物に指定され、8千年に及ぶ歴史に裏づけされた標津の郷土愛を高くくむ拠点として高く評価されている。しかし、復元竪穴住居や木道の老朽化が進み、昨年の豪雪被害で、緊急対策を講じなければ壊滅の危機にある。

**答** **教育長** まさに、標津町のスタートはポー



小川悠治 議員



外観



内部

ポー川史跡自然公園倒壊した竪穴式住居

川といえる。施設維持対策はその都度行ってきたが、昨年の豪雪で丘の上の1棟は潰れ、残りも形状を留めているに過ぎない。大雪山で確保した白樺の皮も

現在国立公園で入手不能なため、2棟を1棟にしての修理を検討中。国道沿いの2棟は葦を

用意し、職員の手で再復元する。財源について文化庁・道に要請している。

### 道博物館の「夷酋列像特別展」

その舞台は標津

### 「故郷の歴史と自然」テキスト作成

**問** 北海道博物館のオープン記念として「夷酋列像展」が開催されている。1789年メナシ（標津地域）が舞台の「クナシリ・メナシの戦い」に関する特別展である。この戦いを境にして江戸末期の蝦夷地から明治2年の日本領土としての北海道（日本国）に繋がっていく。まさに、標津の出来事が北海道の基点とも言える。松前町では、松前藩とメナシ地方（標津地域）との



※北海道博物館開館記念特別展  
〈2015年11月8日(日)まで〉  
夷酋列像 蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界

悲惨な出来事を小学生から高校生まで詳しく教え郷土愛と観光資源に役立てている。地元標津としても歴史と共に、200種とも言わ

れる湿原植物、サケ・マス自然ふ化観察など地域の自然資源を併せて周知させ、体験観光資源として活用できないか。

**答** 観光はポー川単独では誘因性が弱く、サーモンパークとの連携でも、一観光地滞在45分のパターンから投資と収益性の関係で厳しい。

- 教育長**
- 1 町民寄贈の資料が4万点ある。町の歴史が解るような展示に努めたい。
  - 2 小学生から高校生まで「故郷の歴史と自然」を身につけ、愛郷心を育てるテキストを作る。
  - 3 世界遺産申請手続きについては、候補記載の少し前の段階。文化庁より、アドバイスを得ている。

※松前藩家老をつとめた蠣崎波響（かきざきはきょう）が1790年に描いた12人のアイヌの肖像画「夷酋列像」。いつしか海を渡り、フランス・ブザンソンで発見された謎多き名作と国内現存の模写作品の数々が、200年の時を超えこの秋札幌で一室に会する初の展覧会！

**町民の意見を町づくりに  
反映させる取組の強化を！**  
 ～公共施設などへの「ご意見箱」設置や  
 役場内での要望窓口開設や  
 案内の充実について～

**住民の意見を聴くことは重要  
直接住民から意見を伺う  
従来の方法で対応する**



金田 照男 議員

**問** 町の政策づくりにおいて住民から広く意見を伺う、広聴の必要性について、人口減少や高齢社会を向かえることからの時代、さらに重要なことであり、積極的な取り組みが必要ではないか。  
 現在、進められている標津町新生プランス

トップⅡは、平成22年に、多くの町民からいただいた意見や提言などを集約し、具現化した街づくり計画であり、現在その取り組みが進行しつつある。  
 当時は、住民から多様な意見などをいただいた訳であり、7月で5年が経過した。  
 そして、この間、厳しさを増す酪農業や水産業の問題、高齢化や人口減少の進展、新しい住民も増加しており、情勢も変化し、住民の

行政への期待やニーズも多様化し、町づくりに対する思いも変化してきていると考えている。  
 町づくりの主役は、「住民」であるので、自ら創造する自治の時代において、民意の反映は、地方自治の原点であり、広聴の役割は大きなもので必要性は増している。

しかし現在、住民の多様な意見・要望・政策の提案を受けていくという取り組みが少なく感じている。このようなことから、日常的に町民の様々な意見を受けていく（仮称）町民御意見箱を公共施設などに設置し、積極的に、住民の声を聴き、ニーズを把握し、住民が共感・共鳴するテーマづくりなど政策に反

映させていくということが必要である。  
 加えて、役場を訪れる方々への庁内の案内や住民から直接、要望・意見を伺う総合案内窓口を設置しサービス向上に努めては如何か。



※目安箱

**答** 住民の声を町政に反映させることは最も意を用いなければならぬ。広聴には直接広聴・間接広聴がある。直接広聴では、まちづくり懇談会や出前講座を行っている。

まちづくり懇談会はどちらかという要望型となっており、近年はあまり要望も無くなってきたり、隔年実施としている。

間接要望では、昨年5月から町長あてに、意見・提案・質問を出す取り組みを始めており、14件の利用があり、病院に設置しているTVのBS放送導入などの要望に込んでいる。  
 ご意見箱は過去に何回か実施したが、ほとんど利用が無く廃止した経緯があり、利用は見込めないものと考えている。広聴の手法としては、今後、SNSなども考えなければならぬ。

ワンストップサービス（案内窓口）は管内でもやっていたところがあるが、やめているところも多い。それぞれの窓口での住民対応機能向上に工夫をし行っていく。

※目安箱（めやすばこ）  
 目安箱は、施政の参考意見や社会事情の収集などを目的に、庶民の進言の投書を集める為に設置した箱、及びその制度の事である。制度は古くから存在するが、一般的に目安箱と言えば江戸時代の1721年（享保6年）に徳川吉宗が設置したものを示す事が多い。



# 研修会報告

文教福祉建設常任委員会 広報特別委員会



前列) 中標津町議会 (中央) 標津町議会 (後列) 羅臼町議会

## 文教福祉建設常任委員会

北海道町村議員研修会に  
5名参加

平成27年度の北海道町村議員研修会が7月7日に札幌市コンベンションセンターで開催され、田中議長を含めて5名が参加。

この研修会は北海道町村議長会が、議員の資質向上のため、毎年開催されており、標津町議会では、二つの常任委員会が交互に参加しており、今年は道内から町村議員、事務局職等が1800人参加した。

### 講演

● 今村 都南氏

(中央大字名誉教授)

### 〈テーマ〉

「地方議会を取り巻く最近の動向」

● 川村 晃司氏

(テレビ朝日コメンテーター)

### 〈テーマ〉

「これからの政局・政治動向」



広報誌のアドバイス風景

## 広報特別委員会

全道議会広報研修会に  
4名参加

8月19日札幌市において、全道議会広報研修会が開催された。

この研修会は北海道町村議会議長会の主催で開催され、議会の広報誌に携わる議員のために表現基本等を深めるためのもので、標津町からは大垣広報特別委員長他3名が出席し



長岡光弘氏の講義風景

た。

東京在住のグラフィックデザイナー長岡光弘氏より紙面編集のポイント、知っておきたい視覚化の基礎知識の講義を受けた後、道内9町の広報誌をもとに編集の具体的な技術についてアドバイスを受けた。

今後この研修会で受けた知識を基に町民に分かりやすく読んで頂くための誌面づくりを目指したい。



原生林に囲まれた水源地

## 根室地方森林・林業・林産業活性化推進議員連盟協議会研修会 10月2日 於:別海町

平成27年度の根室地方森林・林業・林産業活性化推進議員連盟協議会の研修会が別海町で開催され、今年度は根室市が定例市議会のため欠席となり、別海町・中標津町・標津町・羅臼町から37名の出席があり、当議会より大垣会長他3名が出

席した。この研修会は管内1市4町が持ち回りで実施しているもので、今年度は別海町をフィールドとし、「上水道と森林」をテーマに、別海町の取水施設と浄水場を視察し「水道の水ができるまで」を研修した。

### 取水施設

別海町は本別海地区が高潮災害により

井戸が冠水し飲料水の確保が多難となり昭和48年に水道計画を樹立し、国営事業により営農用水及び簡易水道施設として58年度に完成した。水源地は、標茶町の国有林内にあり、摩周湖の伏流水で、2か所の水源からは別海町全域と、根室市の一部（厚床、落石など）に水道水を供給している。林



水道浄水場内部

野庁には、水質保持のため、まったく施業のしない「原生林」として扱うよう要請し、植林などは行っていない。

### 浄水場など

浄水場・配水池等を経て末端まで自然流化で供給されている。

## 根室地方森林・林業・林産業活性化推進議員連盟協議会 〈略称〉根室林活議連協議会

### 目的

この協議会は、根室地方の森林・林業・林産業の活性化と山村振興並びに森林のもつ公益的機能の維持向上のための、情報交換と必要な事項について調査・検討し、森林整備と林業・林産業活性化及び山村振興に寄与することを目的とする。

### 組織

この協議会は、根室地方の各市町村議会で結成された森林・林業・林産業活性化推進議員連盟等をもって組織する。

## 寄稿

# 地域の魅力発信を住民の力で!

標津町観光ガイド協会 会長 川畑喜美子

標津町観光ガイド協会の設立は、平成13年5月、標津町工コツーリズム交流推進協議会が発足した後、間もなくのことです。

町商工観光課の呼びかけにより、初の町民観光ガイド養成講習会が開催され、50名以上の町民が参加、私も受講させていただきましたのが切っ掛けとなりました。

講師は体験教育企画の藤澤安良氏で①人口減少を迎える今後は交流人口の拡大こそが町の活性化を図る重要な策の一つであること。

②通過型の観光を滞在型の観光にするための目的づくりが必要であること。③単に見るだけの観光の時代は終わり実際に体験し、地元の人との交流、心のふれあいが、また来たいという気持ちにつながり、リピーターになること。④地元の人がガイドになることによ

り、地元の歴史や文化などを自らが再認識し、誇りをもって生活できること。⑤都市と地方の交流によりお互いが元気をもらうことができること。など、体験観光を

際とり入れて、活性化している町や村の事例も沢山紹介していただき、とても感銘いたしました。その後、受講した数名が中心となり、ガイドの組織を立ち上げよう

と呼びかけを行ない、当初、26名のメンバーで結成されました。翌年の9月には、京都のS小学校の修学旅行の受入れを行ないまし

た。私たちはその時、はじめて町民ガイドの役割の重要性や、やりがい、楽しさを実感しました。その後、一年ごとに修学旅行の受入れは増加し、ガイドの人員確保、ガイドの内容の充実、レベルアップのための研修等を繰り返し行な

い少しずつその基盤を作りあげてきました。現在は、75名の会員の方々が自らの職業の傍ら、ガイド協会の事業に協力していただいています。来年で15年を迎えるこの会が継続できたのは、会員の皆様のガイドとしての理念がしっかりと育った証しであると思いますし、このことが昨年受賞した「ディスプレイ」農山漁村の宝」(農林水産省)であると思います。

今後の課題は、修学旅行の受入れの他に、個人、小グループの受入れを進めていくための基盤整備、事務局体制の強化、体験を受入れるための施設の整備、ガイドの後継者育成、体験プログラムの充実など山積みです。

来年2月には、平成27年度町民ガイド養成講習会が開催される予定です。是非、講習を受講され、町民ガイドとして共に標津町の活性化の為に活動しようではありませんか。

## 編集室



9月の中旬、3泊4日の日程で、同志社女子大学(京都)の学生一行約30名によるゼミ合宿が、当地「標津の景観」をテーマに取り上げ実施された。地域のお年寄りなどから、地域の歴史や文化などを学び、学生の視点で町の素晴らしいところを評価し、学内(ゼミ)報告会を標津町民にも公開し実施、町民も熱心に聞き入った。

景観を単に景色としてみるか、その暮らし歴史文化を知り、見つめるかによって景観も随分違って映るらしい。「文化的景観」という視点から地域の魅力を引き出すということが、求められる時代である。

(金田 照男)

照男 英司 金田 山崎 委員 勇智 委員 大垣 吉田 委員 長 吉田 委員 副 委員 幸 孝 田中 議長

広報特別委員会